

と き 令和8年1月27日（火）

ところ 西部公民館 第1学習室

令和8年調布市公民館運営審議会 第1回定例会速記録

開会 午後2時4分

○稲留委員長 みなさん、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から、令和8年調布市公民館運営審議会第1回定例会を開催いたします。

それでは、議事に入る前に定足数について、事務局から報告をお願いします。

○倉持東部公民館主査 本日、欠席の委員はいらっしゃいません。委員9人全員出席されておりますので、調布市公民館運営審議会規則第5条に規定されている定足数に達しております。

以上です。

○稲留委員長 ありがとうございます。それでは、定足数に達しているということでありますので、引き続き審議を進めてまいります。

傍聴希望の方はいらっしゃいますか。事務局から報告をお願いします。

○倉持東部公民館主査 2名いらっしゃいます。

○稲留委員長 お入りいただくようにお願いします。

(傍聴者入室)

それでは、資料の確認を事務局からお願いいたします。

○倉持東部公民館主査 では、本日の資料を確認させていただきます。

まず、前もって郵送でお送りした資料から確認いたします。令和8年調布市公民館運営審議会第1回定例会日程です。A4の1枚物です。次に、資料1、使用状況報告（令和7年11月～12月分）です。次に、資料2、事業報告（令和7年11月～12月分）です。次に、資料3、令和7年度市民文化祭についてです。次に、資料4、社会教育委員の会議（令和7年度第4回）についてです。次に、資料5、令和8年度調布市公民館事業計画（案）です。次に、資料6、令和8年度調布市公民館運営審議会開催日程（予定）です。

続きまして、本日机上配付しております資料について御紹介いたします。まず、西部公民館の館内案内図があります。A4、1枚横のものです。次に、図書館だより277号、令和7・8年度市民活動団体リスト、ピンク色の小冊子です。最後に、とうきょうの地域教育No.156。

資料は以上となります。

○稲留委員長 ありがとうございます。皆さん、お手元におそろいでしょうか。

それでは、議事に入る前に「公民館だより」の記録は川上委員、よろしくをお願いします。

○川上委員 分かりました。

○稲留委員長 審議を円滑に進行し、ホームページでの議事録公開時に誰が見ても理解できるように、略称を次のとおりとします。

丸山東部公民館長・福澤西部公民館長・小川北部公民館長を氏名プラス館長とすることができるとします。

この略称について、毎回、確認をさせていただきますが、委員の皆様、よろしいでしょうか？

○稲留委員長 それでは、日程第1 報告事項 (1)使用状況報告 令和7年11月～12月分について、丸山館長から説明願います。

○丸山東部公民館長 それでは、令和7年使用状況11月分から12月分について報告いたします。資料1をお願いいたします。

初めに11月分です。2ページをお願いいたします。下から4行目、公民館ごとの合計欄を御覧ください。東部公民館においては186単位、2,191人、西部公民館においては144単位、2,413人、北部公民館においては257単位、2,179人の使用がありました。3館合計で587単位、6,783人の使用でした。前年の11月と比較いたしますと、44単位の増、846人の増となっています。

続いて12月分です。4ページをお願いいたします。下から4行目、公民館ごとの合計欄を御覧ください。東部公民館においては141単位、1,184人、西部公民館においては126単位、1,536人、北部公民館においては201単位、1,593人の使用がありました。3館合計で468単位、4,313人の使用でした。前年の12月と比較いたしますと、47単位の増、500人の増となっております。

なお、館によっては、11月、12月分の前年度と比較上、増減があります。11月分ですけれども、東部公民館は、御存じのとおり児童館及び保育園がある複合館で、東部公民館の地域文化祭では、東部児童館を使用したものもありました。

増要因は、地域文化祭で開館50周年で初めて公民館、保育園、児童館3館合同で実施したサーカスに多くの親子連れが参加したこと、加えて、親子連れがちょこぼん事業を実施した館に多く来館されたことです。また、西部公民館は、主に音楽や体育団体及び行政の使用に伴う増、北部公民館は、主に有料の健康増進団体及び文化関連団体の使用に伴う増が要因となります。

説明は以上となります。

○稲留委員長 それでは、今の報告について御質問等はございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

質疑がないようですので、次に、(2)事業報告 令和7年11月～12月分について、丸山館長から説明願います。

○丸山東部公民館長 それでは、令和7年11月から12月分の事業報告をいたします。資料2の1ページをお願いいたします。

初めに、東部公民館です。成人教育、家庭料理教室「手土産でも喜ばれるホームパーティー料理」は、クリスマスや年末年始の特別な食事やパーティーにもぴったりのおもてなし料理を短時間で作る方法の習得を目的に開催しました。

参加者からは、「優しいお味で満足。先生の説明が分かりやすく、また参加したい」「メニューのバランスがよい。野菜、魚、肉、パンと偏りがなく、食べ飽きない」「自分でも作ってみたいです」「手羽先の骨の取り方は初めてでした」など、内容も講師にも大変満足した御意見ばかりでした。

男性の料理教室「60歳から始める冷めても美味しいワンコイン秋鮭おかず」は、料理初心者の方が、フライパン1つでのメイン料理の作り方を基本から学びました。

参加者からは、「初めて参加しました。ありがとうございました」「やはり料理は難しいですね。今後ともぜひ参加させていただきたいです」と、80歳代以上の方も人生100年時代に向けて楽しめる機会となりました。なお、2名の方がレッツおやじめしという団体に入会しました。

東部市民講座Ⅳ「かわいいだけじゃない！都市に暮らすたくましいタヌキたちと自然環境」、こちらについて、まず1点修正をお願いいたします。人数のところですが、縦に読みますと、13、11、13となっております。一番上の13のところは11と13の合計24となりますので、御訂正をお願いいたします。

こちらの事業については、若葉町や入間町は入間樹林や生産緑地が多く残され、小動物の生息地ですが、都市化とともに減り、食べ物やすみかを求め、農作物や住宅環境を荒らす害獣となる場合もあります。強制はできないのか、国際基督教大学敷地内で確認されているタヌキやアナグマなどの映像や、国分寺崖線を有する実篤公園を観察して、自然と動物と人の暮らしについて考えることを目的に開催しました。

参加者からは、「実篤公園の文学、学術的面の興味で訪れたことはあったが、今日のよりに自然に目を向けるのは大変よかったです」「多方面からの味わいが楽しめました」など、天候にも恵まれ、現地で実際に体感することができた実りある機会となりました。

東部市民講座Ⅴ「しめ縄・しめ飾りを知る・作る」は、由来や意味を知り、自然の恵みである稲わらに触れながら日本の文化を楽しむことを目的に開催しました。

参加者からは、「歴史や文化の話も大変面白く、自然のものから物を作る楽しさを改めて実感しました」「手作りできたことがうれしいです。縄の作り方も知れてよかった。作業がとても楽しかった」など、世界の縄の使われ方から日本の風習までを学び、触れる体験に喜ぶ実りある機会となりました。

歴史講座「これからの幕末史 地域からの視点、今、幕末の信州上田藩がおもしろい！」は、地域から通史を見直す幕末史研究の面白さを感じていただくことを目的に開催しました。

参加者からは、「初めて知ることばかりで大変面白かったです」「岩下先生の講座を毎回楽しませていただいています。ありがとうございました」など、好評な意見がある一方、「分かりやすい話し方でよかったです。後が詰まってしまったのですけれども、もう少し詳しい話も聞きたかったです」など、少し残念な気持ちになられた受講者の意見もありました。

平和事業Ⅰ，戦後80年・調布市制70周年・東部公民館50周年記念「満映女性監督・坂根田鶴子とその時代」は、1931年の満州事変以降、多くの人々が中国東北部に渡り終戦を迎えました。その後、帰国を許された中の1人で、映画のまち調布の地を踏んだ男装かつ日本初の女性映画監督が坂根田鶴子です。根岸寛一が基礎を築いた満州映画協会唯一の女性監督となり、多くの国策映画を制作した時代、そして満州についても学び、戦後80年たった今、平和について改めて考える機会として開催しました。

参加者からは、「実態に基づいた内容でとてもよかった。中、高、大学生が受講するのが有意義であると思う」「満州、これまであまり知らなかった分野、領域でした。坂根さんのことも2日目の加藤教授の話も私にとっては新鮮でした」「加藤教授の話はもっと聞きたいですね。お2人ともお話も上手でした」など、深く理解することができたとする意見が大半でした。

調布市公民館2館合同事業，市制施行70周年記念調布市公民館三館合同事業講演会「天文学入門 調布から宇宙の果てまで旅をしよう！～大きな宇宙と小さな奇跡～」は、天文学や星空の神秘について興味、関心を高めてもらい、広大な宇宙から見たときに、自らの存在の小ささや人間同士の争い事がいかにささいかということに気づいてもらう機会とすることを目的に開催しました。

また、星空を眺める楽しさ、心や体の癒やし効果を感じてもらうために、スクリーンいっぱい映し出す宇宙シミュレーター、4次元デジタル宇宙ビューワー「M i t a k a」を見ながら、調布、地球を飛び出して、太陽系、銀河系、宇宙の果てまで旅を進め、そこに生きる私たちのありようについても思いをはせた講演会となりました。

参加者からは、「白いお星様がきれいだった。太陽系から宇宙が見られてうれしかった」と、小学生は率直な感動を表現し、「初心者に理解しやすい言葉で説明してくださったりユーモアを交えた形で親しみやすかったりと、以前よりも宇宙を知ることができて楽しく満足です。宇宙図を活用して星空を観察してみます」「先生の話し方が淡々としつつもユーモアがあって、難しいのに楽しく聞けました」「映画でもあるような隕石の衝突、太陽の爆発、銀河が近づいてくるなど、様々な危険があることが分かりましたが、少なくとも私や娘が活着ている間は安心して暮らせることが分かってうれしいです」など、大人の方も詳しく知ることができたので、さらに興味を持ったとの感想も多くありました。

2ページを御覧ください。とうぶ50周年コラボ企画、開館から50年の節目に当たり、複合館である東部保育園、児童館、公民館による初めての合同記念イベントを実施しました。市内在住で、世界でも活躍するサーカスパフォーマーがバルーンを使ったアートやレストランを題材にした目をみはるアクロバットなど、参加者にもお手伝いしてもらい、お子さんから大人までみんなが楽しめる演目で大盛況でした。

参加者からは、「ミニサーカスの迫力に驚いた」「ちょこぼんかわいい」「子どもが階段アートに参加したので、それがこのお祭りの1つになったことがうれしい」「ゼンタングル、ダーニングなど、興味深かった」「ミニサーカスを見に来たが、予想以上に楽しいイベントがたくさんあり、来てよかった」「展示もすばらしく、サブリミットさんのサーカスに度肝を抜かれました」など、従前から公民館を知っている方はもとより、今回のサーカスがきっかけで初めて知った方も多くいました。

展示会、企画展Ⅳ、平和事業関連企画展「軍医が見た満洲～家族への手紙・押し花・街並み」は、近隣にお住まいの方から資料提供を受け、平成29年に実施したリバイバル展示となります。戦後80年の年、平和事業Ⅰと関連して同時期に開催しました。昭和17、18年頃、軍医として北満の地へ赴任した父から息子へ宛てた押し花の軍事郵便と故郷の母へ送った満州の街並みが想像できる看板写真を展示しました。

観覧者からは、「地名、押し花が印象に残りました。父も軍医でした。満州シベリア抑留後、帰国。母も軍属として満州最終列車で新京、1年後に兄と帰国。父母の軌跡を少し

追えました。ありがとうございました」 「押し花帳の初めの文、花を愛する小室さんは、平和を愛する人であったと思います。一つ一つの花の説明に合わせて戦争の兵隊の様子を描いていて、対比されているのが何とも切なく、今を生きる我々も考えさせられました」 などといったアンケートでした。

市民文化祭，東部地域文化祭実行委員会は，記載の内容が会議されました。

プレ文化祭は，文化祭に先駆けて8団体が開催し，普段のサークル活動を見学，体験していただきました。

東部地域文化祭は，参加団体は30団体，観覧者数は発表部門1，277人，展示部門961人で，合計2，238人となり，前年度の倍近くの人数が50周年の記念の年に来られ，一時は館内が親子連れですし詰め状態となるような大変なにぎわいを見せ，過去最高と思われる地域文化祭となりました。

連携事業，地域連携事業「（シニア向け）スマホのプチお悩み相談～中高生がわかる範囲でお助けします」は，桐朋女子のボランティアグループ「空」とスマホ難民のシルバーク世代をつなぎ，学校と地域，中高生と高齢者の交流，近所にふらりと立ち寄っていただける身近な公民館を印象づけ，公民館としての本来の役割もアピールした三方よしを目指すために継続しています。

参加者からは，「優しく分かりやすく教えていただきました。本当に助かります」「私の携帯が少し変だったため，うまくいかなかったので，教えてくださった方に申し訳なかったです」，講師からは，「すごく真面目で気さくな方で，親身になって説明を聞いてくださいました」「答えられなかった部分もあったので，何かあったらまた相談に乗っていただけたらうれしいなと思いました」「優しくフレンドリーな方でした。分からないこともありましたが，優しく対応してくれました」，双方の思いやりが籠もった表現のアンケートばかりでした。

団体支援，共催事業Ⅰ，東部公民館登録団体である「日本史を学ぶ会」の講師による例会を公民館との共催事業として開催しました。

参加者からは，「機織物はふだんは何となくしか見ていませんでした。今回先生から詳しく説明していただき，武士の象徴として重要なものであることが分かりました。とても面白かったです」「貴重な資料を見せていただいて感謝しています。見ていた時代劇が事実とは違うことなど，新たな知識で歴史に触れることができました」。

3ページをお願いします。会議及び広報は記載のとおりです。

東部公民館は以上です。

○稲留委員長 続いて、福澤館長お願いします。

○福澤西部公民館長 続きまして、西部公民館です。

事業報告の前に、まず本日の開催場所である西部公民館の施設について、特徴などを説明させていただきます。それでは、本日机上配付させていただいた西部公民館案内図をお願いいたします。

西部公民館は、市民の学習意欲の高まりに伴い、公民館利用者が増加する中で、西部地域に公民館をとの声の高まりに応え、昭和58年に開館し、今年で42年になります。開館以来、地域の学習、家庭教育支援の拠点として、また交流の場として幅広い年代の皆様に学習機会を提供できたことは、公民館として大きな役割を果たしてきたものと考えております。

それでは、施設概要ですが、1階が児童館、2階が公民館の複合施設で、公民館部分の床面積は約550平米になります。それと別に1階に約30平米の保育室があります。貸出施設は、図面の青色の部分、第1学習室、第2学習室、実習室、和室の4部屋で、そのほか事務室、団体室、そして施設中央に広いロビーがあります。1階からのアクセスは階段のほか、エレベーター、スロープが完備されており、用途に合わせて御利用いただいております。また、多目的トイレにはオストメイトを完備しております。

次に、施設の特徴としましては、実習室があるので、料理サークルが活発に活動していること。防音の部屋があるので、コーラスや演奏などの音楽サークルや、運動、体操系のサークルが活発に活動していること。広いロビーがあるので、他の諸室より多くの集客がある事業や作品の展示をするギャラリーなど、多様な事業展開が可能なこと。1階に児童館があるので、多方面で連携を図って事業を進めることができること。交通の便が悪い地域ながら駐車場、駐輪場とも広いスペースが確保されており、多くの方が来館の手段として利用されていることなどとなっております。

最後に、施設の問題点としては、施設全体に老朽化が進んでおり、計画的な改修が必要となっております。その中で、直近の改修計画としては、電気設備の改修が令和8年度に予定されております。

西部公民館の施設については以上となります。

それでは、事業報告となります。資料2に戻っていただいて、4ページをお願いいたします。

初めに、青少年教育です。子ども料理教室Ⅱとして「親子そば打ち体験」を市の職員が中心となり活動している深大寺そば打ち倶楽部のメンバーに講師を引き受けていただき、実施しました。この事業は、7月に開催した「夏休み！親子そば打ち体験」が好評であったことを踏まえ、昨年度同様、2回目の実施としました。今回も変わらず多くの応募があり、好評な体験事業となりました。

参加者からは、「自分で作ったそばは本当においしかった」「切るのが難しかった」などの感想をいただきました。

次に、成人教育です。初めに、歴史講座として「山田朗氏が見る『戦後80年』そして『昭和100年』」を実施しました。戦後80年、昭和100年という節目の年であることを機に、いま一度、日本の近現代史を見直す内容とし、歴史を見る目を養い、次世代に伝えていく機会となるように、日程を平和関連ロビー展示の期間中に設け、そして、より多くの方が参加できるようオンラインでの参加も可能といたしました。今回は、戦後80年と昭和100年という節目について講師の視点で歴史の見方を解説してもらい、歴史は広い視野を持って見ていかなければならないと改めて気づかされました。今回も講師の豊富な知識から導かれる歴史の捉え方に食い入って話を聞いている参加者がたくさんいました。

参加者からは、「講師の話が大変分かりやすく、有意義な内容でした。紹介された書籍を今後数冊読んでいきたいと思います」「昭和の歴史ダイジェストでありながら、先生の視点がかいま見え面白かったです」などの感想をいただきました。

次に、健康講座として「リンパの流れを整える～セルフケアのコツを学ぼう」を全3回で実施しました。リンパの流れを整え、体の不調を改善するためのセルフケアのコツを学び、ふだんの生活に活かしてもらうことを目的に実施しました。講座は、体の下半身、上半身、体幹部と分けて、最終的に体全体を整える全3回の事業として実施いたしました。1回目終了時から「何か体の調子が変わったようだ」と話している方がいるほど、参加した人の中にはすぐに効果が出る人もいたようです。

参加者からは、「腰が反っていたのに、講座後、整ったことにびっくりしました」「リンパマッサージを自分自身でできるやり方を知り、とてもよかったです。体が軽くなり驚きでした」などの感想をいただきました。

次に、文学講座として、市制施行70周年記念事業「武者小路実篤再発見～『友情』やかぼちゃの絵だけではない実篤を知る～」を武者小路実篤記念館の協力をいただき、全2回で実施しました。市制施行70周年に当たり、調布の魅力の再発見をしつつ、実篤生誕140

年でもあることから、知っているようで知らない実篤の魅力も併せて再発見する契機とするため実施しました。

参加者からは、「近くに住んでいながら関心を持たなかったことが残念と今思いました」「文学史の中の一作家という程度の知識しかなかったが、人なりなど興味を引くことが多く、作品を読みたいと思いました」などの感想をいただきました。

次に、ワークショップとして、ロビー展示関連ワークショップ「ほっこり折り紙体験 寒椿の正月飾りを折ろう」を実施しました。年末年始の季節感を感じてもらうため、折り紙の展示期間中にワークショップを実施し、展示のPRとともに新春に飾ることができる作品を作り、折り紙に親しんでもらうことを目的に実施しました。

参加者からは、「童心に返って夢中になりました。先生などのサポートのおかげで作品を完成することができました」「正月に向けてよい作品ができました。すてきなお正月が迎えられそうです」などの感想をいただきました。

5ページをお願いいたします。成人学級です。まず「ウエストガーデンきらら」は、この期間に4回実施され、そのうち12月に開催した⑭「モミの香りのクリスマスリース」では講師を招き、本物のモミの木を使った本格的なリースを作る公開講座を行いました。講座終了後、作品を持ち帰って自宅などで飾ることができる、その季節に合った公開講座となりました。

次に、「いのちの楽校」は、この期間に2回実施され、どちらも自身の知識や経験を基に会員自ら講師となり、実施いたしました。

次に、「ペンギンテラス」は、この期間に3回実施され、このうち⑨では、親子で参加し学べる施設を選定し、館外学習を行いました。参加者の中には、今年度の子育てセミナー参加者にも声をかけ、会の内容を知ってもらい、入会を検討してもらおうきっかけとなることも考えて実施いたしました。

次に、家庭教育です。子育てセミナーを10月からスタートし、12月までの全8回実施しました。昨年度に回数を減らし、6回開催としましたが、参加者からの要望を受けて、今年度は増やして実施しました。メインのテーマは、「仲間と出会い、子どもと自分を育てよう」とし、子育ての中で、保護者が地域の中で共に学び、つながり合うことを目指し、子育ての先輩などの話を基にみんなで話し合いながら、子どもを育てる目を育て、自分の生き方を見詰め直し、安心して人間関係を築いてもらうことを目的に実施いたしました。

参加者は、初回の自己紹介からスタートし、徐々に自分を出せるよう、講師と参加者、

参加者同士のやり取りを見ながら、一方通行にならないようにバランスを取りながら行いました。参加者同士の話合いの時間を多く取ったこともあり、早くからみんなが仲間、友達のような雰囲気になれたこともあり、みんなに会って話をするを目的に参加していた方もいました。今回の参加者は初めての子育てという方が多く、1回目の子育て支援策の説明からとても参考になったようです。

また、講師の話が中心の会でも、話を聞くだけでなく、他人の意見や感じ方を聞けることも勉強になることや、考えさせられることがたくさんあってよかったなどの感想もあり、一方的に話を聞くだけの講座では得られないものがあつたようです。あわせて、話合いの場を多く設けることで、一人一人の気づきや成長につながつたと感じております。そして、そこから参加者の悩みなどを素直に皆の前で表現できるようになり、孤独感が解け、心を少し開放することができたという方もいたようです。

今回、新たに昨年度の参加者から要望があつた小児救命救急の講座を取り入れ、漠然と不安に思っている子どものけがや急な病気の対処法など、講師である消防の方に質問したり、小児AEDの実体験を行ったり、限られた人数でのメリットを生かし、満足いくものとなつたと考えております。

セミナー終了後、今年の参加者も自主的な活動として継続する方向で進んでおりますが、復職をする方も多く、サークルとして立ち上げるのは難しい状況であるため、昨年度のセミナー参加者でつくられた成人学級「ペンギンテラス」へ合流し、一緒に活動を続けていく方向で進んでおります。公民館として自主的な活動の支援を含め、今後も地域の中で保護者の方がつながっていけるよう、お互いの交流を支援してまいります。

事業終了に当たって、参加者の満足度は非常に高い事業ではありますが、自ら手を挙げて参加していただける方が少ないことも事実です。当然、市報やホームページへの掲載、SNSをフルに活用してのPRをはじめ、児童館をはじめ、子育て中の保護者が来る近隣の公共施設に直接行ってPRすることや、各種講座の実施の際にPRをするなど、時間と手間をかけて紹介をしております。来年度は、国領の子ども家庭支援センターすこやかなど、もう少し範囲を広げてのPRなど、より積極的に行っていきたいと考えております。

参加者からの感想としては、「参加してよかった」という声が多くの方から聞かれました。個々の内容としては、「母として子育ての仕方、心がけが参考となりました。いろいろな人と話すこと、人とつながることの大切さを知りました」「行き詰まったら自分だけで考えるのではなく、他人に頼ることも大切だと実感しました」など、自分だけではない

と考えられるようになった人も複数いたようです。来年度も仲間と出会い、子どもと自分を育てることを目的にすることは変えることなく、実施期間や内容などの参加者の意見、要望を踏まえ再検討し、実施したいと考えております。

6 ページをお願いします。次に、展示会です。この期間中、ロビー展を2事業行いました。

まず、市制施行70周年記念事業、文学講座関連ロビー展「武者小路実篤再発見～直筆複製と写真から」です。さきに報告した文学講座の関連展示として、講座の開催に合わせ、実篤の魅力に触れる機会となるよう、直筆原稿や写真など52点の展示を行いました。

次に、2つ目として「戦争の怖さを伝える～被爆者の描く絵とVR動画」を行いました。被爆者が描かれた原爆関連の絵画と原爆投下直後の広島を知るVR動画、そしてピースメッセンジャーの報告のパネル展示を行い、戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを改めて知る、学ぶ、そして伝え残すことが平和につながるということを知る機会となるように実施しました。

このうち、広島市からお借りしたVR動画は、原爆投下からその復興に至るまで、ゴーグルをかけて上下左右360度見ることができる映像となっております。このVR体験、そして展示見学された方の多くは、原爆の悲惨さ、平和への思いを深く感じていただけたと考えております。

次に、市民文化祭です。西部地域文化祭は、観覧者総数として2,251人で、前年度の1,873人との比較では378人、約20%の増となりました。この人数の増については、天候がおおむね安定していたことも一因となりますが、展示やサークル体験において内容の見直し、向上を図ったこと、そして、参加者がPR活動を活発に行っていただいたことなど、地道な努力の積み重ねが実を結んだものと考えております。実施内容については、前回の公民館運営審議会でも報告申し上げたとおりです。

次に、西部地域文化祭実行委員会は、記載のとおりです。

次に、団体支援です。サークル体験Ⅷとして「声を出して伝える楽しさを～はじめての朗読体験」を、登録団体を目指して活動を続けている「朗読の森」がサークル体験を行いました。参加者は延べ14名で、各回とも和やかな雰囲気でも体験ができたこともあり、新規入会者があったとの報告があり、サークルの活性化につながりました。

次の会議と最後の広報は記載のとおりです。

西部公民館は以上です。

○稲留委員長　　ありがとうございました。最後に、小川館長お願いします。

○小川北部公民館長　　続きまして、北部公民館です。7ページをお願いいたします。

初めに、青少年教育事業です。親子工作教室Ⅱ「親子で作るガラスの冬のオーナメント」です。色ガラスを組み合わせて絵を描くように自由に好きなデザインのオーナメントを親子で1つずつ作りました。色とりどりのガラスを目の前にどんなデザインにするか悩みつつ、1時間で制作しました。また、作品に各自で題名をつけ、11月23日から11月30日まで北部公民館1階の展示ギャラリーで展示しました。

来館者からは、「いろいろな顔の雪だるまがあって面白いね」などの感想をいただきました。落選者が多い事業であるため、初めて参加する方を対象と限定した募集を試みたところ、「今まで応募しても落選していたが、ようやく参加できた」という喜びの声を数組からいただきました。次年度も落選者が多い事業については、応募時に工夫してまいります。

続きまして、青少年体験教室Ⅲ「イヴイヴタ方の手芸の会～自分だけのコースター作り」です。手芸材料を使って自分の好きなデザインのマグカップやタンブラーを置くコースターを作るという中学生及び高校生を対象とした教室です。この教室は、青少年育成を目的とした奉仕活動として行うという講師からの意思が示され、謝礼なしで実施いたしました。制作時間は1時間程度、作品は持ち帰りという広報でしたが、今回は残念ながら参加者はゼロ人でした。今後は、中学生から高校生を対象に、別の公民館主催事業と同時開催で何度か行い、自主的な学生のグループをつくることも目標として、参加促進を図ってまいります。

続いて、8ページをお願いいたします。成人教育事業です。芸術鑑賞講座Ⅲ「印象派の殿堂オルセー美術館（パリ）への招待」を全3回で実施しました。土曜日、日曜日開催の講座でしたが、募集開始からすぐに定員になりました。講師の演出でシャンソンのBGMを流しながら、2泊3日のパリ旅行で美術館に案内されるという演出で講義を行いました。展示室を歩きながら見て回るように所蔵の絵画作品を鑑賞しました。

参加者からは、「オルセー美術館に行った気分を味わうことができ最高でした」「講義の内容が分かりやすい。印象派の美術展に行く予定なので、とても参考になりました」などの声がありました。

続きまして、歴史講座Ⅰ「戦後80年から振り返る、日本が変えた戦争の歴史～第1次世界大戦」を全4回で実施しました。講師の都合により夜間に開催することとなりましたが、

定員の30人を超えての申込みがあり、定員枠を広げて市外の方の参加も可としました。日露戦争後に日本が西欧列強の対立構図を変えたこと、第1次世界大戦で日本とアメリカが貿易で大きな利益を得たこと、大戦後に国際連盟が創設された意義などが解説されました。

参加者に小学生も参加しており、「少し難しいけど楽しかった。日本の与えた影響に驚いた」という感想を持たれたようです。「各国の思惑や考えが分かって面白かった。学校で習うことができなかつた近現代史を学ぶことができ、大変有意義だった」などの声がありました。

続いて、文化教室Ⅲ「はじめての伝統工芸『七宝焼』体験教室」を全2回で実施しました。七宝焼とは、金属の素地にガラス質の釉薬をのせて焼きつけた日本の伝統工芸品です。北部公民館では、以前、七宝焼教室をやっていたこともあり、専用の窯がありましたので、今回教室を実施いたしました。色選び、色のせに悩み、細かい作業に時間がかかりましたが、慣れてくると思いどおりの色をのせ、参加者同士で相談し合ったり教え合うなど、頻繁に交流しながら楽しんでいる様子でした。作品は、11月15日から21日の期間、参加者全員分をガラスケース内に展示しました。また、子どもからも参加希望の問合せが何件もあったため、次年度に向けては親子教室ができるよう企画してまいります。

続きまして、成人学級の「サステナブルを学ぶ会2025」です。令和6年の能登半島での地震と火災による被害から、火災に係る防災について学びました。また、12月には23区のごみ処理施設、埋立処分場やごみの中間処理施設等を見学し、ごみの資源化や環境保全の取組について学びました。

次の成人学級は「Multicultural Study Group」です。東京外語大学でのドキュメンタリー映画を鑑賞し、森と共に生きることの大切さを学びました。

続きまして、家庭教育です。家庭教育講座Ⅱ「うまい話には裏があるのです～学生、子育て中の方必聴！ゲーム、ギャンブル、闇バイトの裏話～」です。スマートフォンを駆使して繰り返される特殊詐欺の事件は、この数年で激しく増加しており、特殊詐欺、暴力団と闇バイト、トクリュウの関係について解説しました。特に子どもが巻き込まれやすいSNSやゲーム等、インターネットを介しての犯罪の構図や犯罪の方法に焦点を当て、また、若者の警戒心の低さについても話されました。家族、子どもが簡単に巻き込まれ、加害者にも被害者にもならないための知識を学びました。このような内容は、青少年や学生、その保護者にもぜひ聞いてもらいたいと感じ、参加促進のためにも、さらに広報する必要性を感じました。近隣の学校と連携が取れるよう、公民館からも働きかけをしていき

たいと考えております。

次に、9ページをお願いいたします。国際理解教育事業です。国際理解講座Ⅰ「中国から理解する日本と世界」を全2回で実施しました。アメリカ・トランプ政権が国際社会にどのような地殻変動をもたらしているのか、その中で、中国政権の歴史的流れや習近平新時代が目指す外交戦略について解説されました。また、現在の日中関係、日本国内に押し寄せるインバウンドなど、身近に感じる話題を取り上げ解説し、外国人と共に生活ができるような制度設計を政府がしていくことの重要性が話されました。

参加者からは、「新聞だけでは感じられないことが聞けてよかった」「現在日本で行われている政策の問題点の話が聞けてよかった」等の声がありました。

続きまして、展示です。先ほど報告しました青少年教育の「親子で作るガラスの冬のオーナメント」受講生による作品展として、38点の作品を展示いたしました。

次の「北の杜冬のぬくぬく我が家のペット展」は、北部公民館で活動しているサークルの会員がペットをテーマにした陶芸、絵画、スケッチ、工作、刺しゅう、ガラス細工の作品を39点展示しました。また、展示会場のテーブルには色鉛筆と紙を用意し、来場者にもペットの絵を描いてもらえるよう工夫しました。

続きまして、市民文化祭です。今年度の北部地域文化祭の参加団体は42団体で、去年の38団体から4団体増えました。また、発表部門は演目数123点で、前回の279点から154点減少し、出演者数は236人で、前回の211人から25人の増加となりました。

展示部門については、作品の出展数は717点で、前回の796点から79点減少し、出展者は229人で、前回の357人から128人減少となりました。観覧者数は1,091人、去年は1,669人ですので、578人減少となりました。

減少の要因としましては、個々の団体の会員数の減少、時間の制限による演目数の減少、雨天による来館者、特に上ノ原公園でのポニーふれあい広場の午後からの中止の影響が減少の要因と考えられますが、次年度以降も人の輪、地域の輪が広がる拠点としての公民館を広く知っていただけるよう企画してまいります。

続きまして、第4回北部地域文化祭実行委員会と第6回役員会を実施し、文化祭委託料の決算報告と次年度の役員人事、地域文化祭を終えての反省等について話し合いました。

最後に会議、広報については記載のとおりです。

北部公民館からの説明は以上となります。

○稲留委員長　　ありがとうございました。各公民館の事業報告が終わったわけですから

ども、皆さん御質問、御意見ございますでしょうか。特にございませんか。

○八田副委員長　　せつかくです。今3館連続で御説明いただいたのですが、ずっと聞いている側もあれなので、1館ずつ質問なり確認なりを入れるといいなというのが1つあります。

私のほうで前々回だったか前回だったですか、資料の作り方として活動の場所を明記してはどうだろうかという提案をさせていただいて、早速反映されております。例えば東部公民館の1ページ目の事例では、一番初めの家庭料理教室の下、料理教室ですから調理室という記載になっています。

3ページ、東部公民館の下から2行目になりますけれども、50周年記念誌編集会議が会場は調理室でなされていますよね。多分、会議室が優先的に利用されておられて、このミーティングに関しては調理室でなさったのだらうということが見てとれました。これらに関して、先ほどの使用状況の内容もありましたけれども、例えば和室などは2割から3割ぐらいの使用頻度だったり、中には、小さいお部屋かもしれませんが、3割、4割の使用状況のお部屋もあるようです。

今後に向けて、公民館の施設利用に関してシステム化を図るというお話も前に聞いたところでもありますので、例えば、令和7年度は、使用状況として一般の市民がどれだけ予約が入っているのかというのは館のほうに問合せをしないと分からないのだらうと思いますが、今後に向けてシステム化を図るとすると、どのような行程をイメージをされているのか、少し関連としてお教えいただければ、令和8年度に向けて何か動きがあるのかどうか、今の時点で分かることを少しお教えいただければありがたいと思います。

○稲留委員長　　丸山館長。

○丸山東部公民館長　　予約システムのところでもありますけれども、我々公民館単体の部署でシステムを構築して運用していくのは、やはりランニングコスト的にも少し高くなるというところで、以前お話をさせていただきましたが、スポーツ振興課と教育総務課が利用しているシステムがリニューアルするということでもあります。施設の予約とかをする別の部署と同じ使い勝手をベースに考えています。

教育総務課とスポーツ振興課は、システムがもともと構築されていて、それをリニューアル、移行するということで、対事業者とも細かい内容の調整を図っているところではありますけれども、我々のほうにはその細かい内容自体はあまり情報が提供されていないところで、情報交換というので少し大ざっぱな内容を伝え聞いているところでもあります。

我々3公民館の職員もテスト環境はあるのですが、どのような形のものでいろいろなことができるのかというのが、少し霧がかかったような、なかなか見えないところであったのですが、今月、既にそのシステムを入れている昭島市に視察に行ってきました。昭島市は、公民館はもとより、ほかの部署も参加しているのですが、実際に使っている公民館の職員と公民館同士で話ができる時間を2時間ほどいただいて、我々がちょっと疑問を持っているところをいろいろ聞きましたら、やはりそのシステム自体は、部屋を貸すとか、そういうものが統一的にできているところはもろんなのですけれども、公民館としてどのような利用をするのかということに特化した内容のお話をいろいろ聞いたところ、かなり汎用性もあって、使い勝手は、今までのアナログから移行したときには制限がかかるのかもしれないのですが、霧がかかっていたのが少し晴れてきたような状況であります。

スケジュール的には、令和9年4月に稼働という話ではありましたが、稼働するに当たっては、数か月前に予約とかをしなければいけないスケジュールでもあるようで、場合によっては、少し前倒しでそのシステム自体が稼働することになりそうだなと。

公民館としては、このシステムに乗るというところには、今の全庁的なスケジュール感だと、かなり事を詰めているいろいろなものを調整する時間はなかなか難しいと思うところがあります。ただ、今、施設の空き状況は電話でお問合せをいただいているところですが、最低限ウェブで見られるような状況までは何とか達成したいと考えている状況であります。

以上です。

○八田副委員長 御説明いただきましてありがとうございます。システムを活用することだと思えますし、他団体で事例もあるし、スポーツ振興課だとか教育会館だとか、現に利用されていますよね。なので、ぜひ公民館も利活用できるような形で足並みをそろえていけるといいなと思っているところで、無理に早めろという話ではありませんが、システム化をするに当たって行程を明確にしていって、利用者さんに混乱がない形で移行できるといいと思いますので、よろしくお願いします。

自分のほうは以上です。

○稲留委員長 どうぞ、清水委員。

○清水委員 清水です。今回、西部公民館で開催していただいている、この館内図を拝見したところ、西部公民館の先ほどの事業報告の中で保育をかなりやっていた

のですけれども、前回の審議会の際に、東部公民館には保育室がありました。西部公民館には保育室がこの図面では見当たらないのですが、どちらで保育をやられているのか。また、保育室がないということでのメリットとかデメリットとかは何かあるのかというところをお伺いしたいと思います。

○稲留委員長 福澤館長、お願いします。

○福澤西部公民館長 西部公民館については、1階に保育室がございます。お手元の平面図は2階のものなので記載はありませんが、広さ30平米、定員は3館で一番多い保育室がございます。事業を実施しているときに1階の保育室を使って保育をしているような状況なので、通常の保育室と変わらない施設です。

○清水委員 一応、公民館の一部としてということなのですかね。

○福澤西部公民館長 はい。

○清水委員 今システム改修の話がありましたけれども、保育室の貸出しなどについてはどうなるのかなと思ったところもあったのです。いろいろ事業がありますから、使う使わないというところはあるのだと思うのですけれども、やはり保育つきの事業のときだけ保育室を使うのはもったいないと感じておりますので、システム改修を機にいろいろ御検討いただけるといいかなと要望させていただきます。

以上です。

○稲留委員長 私もよろしいですか。1階に保育室があつて、お母さん、お父さんはこっちで、その子どもは誰か面倒を見る人がいるわけですか。

○福澤西部公民館長 3館同じなのですが、保育士さんが会計年度任用職員として配置されており人数や年齢に応じて配置人数を変えるという形になります。

○稲留委員長 分かりました。そういう保育のない日は、その保育士さんは日頃何をされているのですか。

○福澤西部公民館長 会計年度任用職員の形を取っておりますので、仕事があるときだけ勤務するということになります。

○稲留委員長 分かりました。では、川上委員。

○川上委員 事業報告ありがとうございました。改めて印象なのですけれども、市制70周年、そして東部公民館は50周年、戦後80周年というすごく大きな節目だったのだと。そのことでいろいろな講座の工夫をして取り組んでくださったことを改めて感じました。

それと、東部公民館さんの50周年の中で、児童館、保育園と一緒にやったって、その催

しに大槻さんも行って、私もたまたまそこに一緒にいたのですが、とても盛り上がっていて、こういう合同のコラボ企画、思い切ってやられたのは本当によかったのだらうと思いました。改めて御苦労さまでしたという気持ちになりました。

あと細かいところなのですけれども、西部公民館さんで平和の展示のときにVRを使った取組をやったり、オンラインの講座も1回やっていますよね。コロナのときにいろいろありましたけれども、今もオンライン、1回ではあれ取り組んでくださったということもとても大事だったのではないかと思います。

北部公民館さんは、文化祭のときに雨が降って半日できなかったのが大変な御苦労だったとも聞いています。そのことも含めて、こういう大きな節目のときは職員の方がとても大変だと思うのですけれども、事業報告を聞いて、取り組んでくださったことに改めて感謝したいと思いました。

○丸山東部公民館長 大変ありがたいご意見をいただきまして、ありがとうございます。各館の専門員が中心となっておりますので、そういうお言葉を頂戴したということをお伝えさせていただきます。多分励みになると思います。ありがとうございます。

○稲留委員長 私からもう一点。一番初めに八田副委員長が話された3館まとめたの報告の後に一括質疑があつて、それぞれごとにやるということについては、皆さんそれでよろしいですか。それとも今のままにしますか。

○丸山東部公民館長 では、次回からそのようなやり方で。

○稲留委員長 では、それぞれの館が終わったら、個別に3回に分けて質疑をするということで、それでよろしくをお願いします。

○丸山東部公民館長 分かりました。

○稲留委員長 そのほかに特にございませんか。

(「なし」の声あり)

質疑がないようですので、次に、(3)令和7年度市民文化祭について、丸山館長から説明願います。

○丸山東部公民館長 それでは、資料3をお願いいたします。70周年記念調布市民文化祭実施報告について報告いたします。

1 ページを御覧ください。70周年記念文化祭テーマは「豊かにかがやく 文化のひかり」、期間は令和7年10月11日から11月16日となっております。

2 ページから6 ページまでが参加者の集計結果となっております。6 ページの最下段を

御覧いただければと思います。参加者総数は3万2,264人でした。なお、括弧内が昨年の数字となっております。2,484人の増ということです。

7ページには文化祭運営費の決算、8ページ以降は参加団体の反省や感想、次年度の検討及び要望事項等、19ページには来年度の文化祭日程が記載されております。通常ですと案が1つしかないのですけれども、来年度は1案、2案、今、協議調整中とのこと。

報告は以上となります。

○稲留委員長　　ありがとうございました。今のことについて御質問、御意見ございますでしょうか。どうぞ、大槻副委員長。

○大槻副委員長　　今聞いていて、あくまで一言です。これからも続けていくという、継続することに本当に意義があります。だから、これを本当に大切に進めていっていただける、要はそういった組織体に今あるわけだと思いますので、それを本当に重視してやっていただければなど。

以上です。

○稲留委員長　　ありがとうございました。では、八田副委員長。

○八田副委員長　　これは報告済みの資料なので、今さらなのですけれども、4ページをお願いします。地域文化祭、大会・発表部門と展覧・展示部門があって、その中で特に展覧・展示のほうの東部地域文化祭の内訳の市民参加がゼロとなっているのですけれども、これはゼロが正しいでいいのですか。

○丸山東部公民館長　　ここの部分は疑問があったのですけれども、例年この市民参加自体がこちらの報告書ではゼロになっている……

○八田副委員長　　でも、ほかの館では違うので、次年度に向けて何かしらカウントする内容があるのではないかと思うので、もう終わったことなのであれなのですが、次年度に向けては少しチェックをしておいたほうがいいかなと思います。

○丸山東部公民館長　　はい。ありがとうございます。

○稲留委員長　　3館で御相談していただいたほうがいいですね。

○八田副委員長　　そうですね。

○稲留委員長　　同じ基準でやってもらったほうが分かりやすいと思います。そういうことでよろしいですか。

○丸山東部公民館長　　はい。

○稲留委員長　　質疑がないようですので、次に、(4)社会教育委員の会議（令和7年度

第4回)について、丸山館長から説明願います。

○丸山東部公民館長　それでは、令和7年度第4回調布市社会教育委員の会議について御報告いたします。資料4をお願いいたします。

会議日程は記載のとおりです。

議題につきましては、2、議題(1)報告事項イ、3、その他(1)、(2)は、社会教育課が主体で開催する事業となっており、特に3、その他(1)が12月に演劇で発表するため、最終調整の打合せで多くの時間を割いていたところであります。

報告は以上となります。

○稲留委員長　これは、御質問はよろしいですね。

(「なし」の声あり)

質疑がないようですので、次に、日程第2 協議事項 (1) 令和8年度調布市公民館事業計画(案)について、丸山館長お願いします。

○丸山東部公民館長　それでは、令和8年度調布市公民館事業計画(案)について御説明いたします。

前回の定例会で素案をお示ししました。各委員からの御意見等はございませんでしたので、御承認いただいたことを踏まえ、案として作成しております。この案を3月の教育委員会定例会で諮ります。

説明は以上となります。

○稲留委員長　あと西部と北部の福澤館長、小川館長から特に補足はございますか。よろしいですか。

○小川北部公民館長　ないです。

○稲留委員長　それでは、全体についても前回議論したことでもありますので、特にということであれば別ですけれども、御意見はどうでしょうか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

それでは、令和8年度調布市公民館事業計画(案)について、当審議会として、(全員異議なく)了承と決定します。

次に、日程第3 その他(1) 令和8年度調布市公民館運営審議会開催日程(予定)について、丸山館長から説明願います。

○丸山東部公民館長　それでは、資料6をお願いいたします。令和8年度調布市公民館運営審議会日程(予定)については記載のとおりです。

説明は以上となります。

○稲留委員長　　ちょっと言いにくい話なのですが、何か規則を見直す動きが近い将来あるという説明を前に聞いて、そのときに年度と年の話も整理していただくという話を聞いていたのですが、そんな話はないですか。丸山館長。

○丸山東部公民館長　　令和9年4月にシステムを導入する際には、条例とか規則とか、そういう見直しは、どうしても今持っているものにシステムを合わせようというのは多分難しいので、システムのほうにそういう規則の関係を合わせましょうということが発生するでしょうというお話はさせていただいたところでもあります。年度と年のことについては、すみません、私自身がお話をした記憶がないのですけれども。

○稲留委員長　　このシステムの更改に合わせてやれるのではないかという話は聞いたことがあります。

○丸山東部公民館長　　ちょっと私自身は知り得ていない……

○稲留委員長　　誰から聞いたか記憶は定かではありませんが、今のシステムを直すときに、やはりこれはおかしいですよ、はっきり言って。8年度の日程の一番下に第1回定例会が来ているわけですから。こういうのはシステムを直すときに一緒に直してすっきりさせてしまったほうがいいと思うのです。規則にも年と書いてあるだけで、暦年とは書いていないわけですよ。そういうことであれば、ぜひこれはシステム更改時に合わせて御検討いただきたい。

○丸山東部公民館長　　私の一存では決められないところではありますので。

○稲留委員長　　どのレベルで決めるのですか。

○丸山東部公民館長　　多分、教育委員会等々でお話をする感じだと思いますので、部長、次長、教育長というところであると思います。

○稲留委員長　　では、ぜひ教育委員会のほうに御説明していただきたいと思います。

○丸山東部公民館長　　そういう御意見があったということだけはお伝えできます。

○稲留委員長　　よろしく申し上げます。

ただ今の説明について、皆様、よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

次に、(2)次回の定例会開催日程について、丸山館長から説明願います。

○丸山東部公民館長　　次回、令和8年第2回定例会を4月28日火曜日午後2時から北部公民館で開催いたします。詳細につきましては、これまでと同様、開催前に資料を送付し

で御案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○稲留委員長　ただ今の説明について、皆様、ご了承ください。

最後に、(3)その他　各館から何かございますでしょうか。丸山館長。

○丸山東部公民館長　それでは、東部公民館からお知らせをします。

東部公民館開館50周年の年度となっております。6月14日のフェスティバルを皮切りに様々な事業展開をしていたところであります。先ほどの事業報告でもお話ししました50周年記念誌編集会議を進めていた中で、各委員さんから御協力をいただいて、予定どおり来月発行予定の運びとなりました。私が見てもかなりの大作です。委員として御協力いただいた皆様にこの場でお礼を申し上げるとともに、ぜひ楽しみにしておいていただければと思います。

今回の公民館運営審議会が4月になりますので、その前にお知らせをさせていただければと思ひまして、今お話をさせていただいたところです。

以上となります。

○稲留委員長　中の写真などはカラー刷りですか。

○丸山東部公民館長　カラーです。カラーで紙もコート紙というか、かなりしっかりしたもので、会計年度任用職員にデザインとかがすごく得意な職員がおりまして、その彼を中心にかなり細かく、過去の歴史も含めてやった大作でありますので、ぜひ御期待いただければと思います。

以上です。

○稲留委員長　ありがとうございました。それでは、ほかに皆さんのほうから特になければ、これで締めたいと思ひますが、よろしいですか。どうぞ、八田副委員長。

○八田副委員長　先ほど委員長から年度と年の話がありましたよね。委員長の御指摘は、年度で考えると4月から3月までなので、4月が第1回でおかしくないでしょうと。それがずれているので、どっちかにしたほうがいいよねという御指摘だと思います。1つ、社会教育委員の会議だとかは、どうも4月が第1回だとか5月が第1回となっているのだろうと思いますので、そこは、ちょっとどこをキリに合わせるのかということなのではないかと思ひます。すぐにはあれかもしれませんが、年度と年のとらえ方を、こっちの委員会はどう考えているけれども公運審はこうなのだということを、標準例に合わせるとどっちがいいのか考えたらいいい時期なのだろうと思ひます。少し宿題として整理されるといいなと

思いますので、よろしく申し上げます。

○丸山東部公民館長 分かりました。

○稲留委員長 ありがとうございます。どうぞ、川上委員。

○川上委員 最後にすみません。私、図書館協議会というところにも出席させていただいているのですけれども、前回その会議に出まして、1つだけお伝えしたいと思ったことがあるのです。図書館も中高生向けのいろいろなことにとっても苦勞しているということなのです。ヤングアダルトサービスというのを充実させようとか、いろいろ考えているようなのですが、今年度、中高生向けの講演会で、最初は人数がとても少なかったのだけれども、いろいろ工夫して、かなりの人数が集まったと言っていました。中高生向けで初めてそういうものを開いて頑張りましたという報告があったのです。

公民館も、先ほど北部さんが一生懸命やったのがゼロというのがありましたけれども、図書館さんの取組を参考になさって、図書館と連絡を取りながら、どんな方法でやられたのかとか、少し参考になるといいかなと思って、そのことをちょっとお伝えします。

○稲留委員長 よろしいですか。清水委員，どうぞ。

○清水委員 すみません、今のお話なのですけれども、12月23日って、中高生は受験だとか塾とかで時期的にもなかなかというところがあるかと思しますので、時期についても一緒にお考えいただけたらと思います。

○稲留委員長 それでは、よろしいですね。

(「なし」の声あり)

特にないということですので、これで本日の日程は全て終了いたしました。

これにて、令和8年調布市公民館運営審議会第1回定例会を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉会 午後3時26分